



佐賀大学・熊本大学「教育学部共同教員養成課程」開課程式のご案内
— 遠隔授業システムで繋ぐ、次世代の「しなやかな教師力」の養成 —



本日、国立大学法人熊本大学と国立大学法人佐賀大学は、両大学の資源を結集した「教育学部共同教員養成課程」の開課程式を挙げていたします。開課程式は、今後実際の授業でも活用される遠隔授業システム（EduCast）を用い、熊本・佐賀両キャンパスをリアルタイムで接続して実施いたします。

1. 設置の背景と目的: 地域と時代の要請に応える

現在、地方における人口減少や少子高齢化は教育機関の存続にも影響を及ぼす深刻な課題です。また、学校現場では不登校児童生徒への対応、特別支援教育の充実、外国にルーツを持つ子どもの増加など、複雑かつ多様な課題への対応が急務となっています。このような背景から、両大学は国立大学法人の枠組みを超えて連携し、地域の教育課題解決に資する質の高い教員を安定的に養成・確保するため、本課程を設置いたしました。

2. 教育理念: <しなやかな教師力>の育成

本課程が目指すのは、<しなやかな教師力>を備えた人材の養成です。これは、確固たる教育理論に基づく「強靱な思考力・豊かな専門性」と、個々のニーズに臨機応変かつ寛容に向き合う「柔軟な対応力・頼もしい実践力」を兼ね備えた能力を指します。変化の激しい時代を生き抜く子どもたちの「レジリエンス（困難を乗り越える力）」を育むため、教員は<しなやかな教師力>を持つことを重視しています。

3. 両大学の強みを融合した「シナジー（相乗効果）」

本課程の最大の特徴は単なる組織の統合ではなく、両大学がこれまで培ってきた独自の強みを学生が享受できる点です。

佐賀大学の強み：就学前から義務教育9年間を見通した幼小中連携教育、全国トップクラスの実績を誇る特別支援学校教員免許の取得率教育の実績、3年一貫型の高大連携プログラム「教師へのとびら」など。

熊本大学の強み：熊本地震を契機とした産学官連携による教育の情報化、不登校児童生徒への支援（ユア・フレンド事業）、英語によるイマージョン教育の推進など。

学生は「共同科目」を通じて、自大学にしながらパートナー大学の専門教員からも直接指導を受けることができ、多角的な視点を持った教員へと成長します。

4. ICTによる教育の革新: EduCast等の活用

本日の開課程式でも活用する遠隔授業システムは、本課程の学びの基盤です。物理的な距離を克服し、両大学の学生がリアルタイムで議論やグループワークを行う「共同科目」を実施します。これにより、異なる地域の仲間と共に学び、多様な価値観に触れることで、チーム学校の一員として必要な協調性やコミュニケーション能力を養います。

5. 地域社会への貢献と未来への決意

本課程は、熊本・佐賀両県教育委員会及び両県市町教育委員会と密接に連携し、1年次からの早期現場体験や地域課題に即したカリキュラムを展開します。地域における教員養成の拠点である国立大学教員養成学部の機能を維持・強化し、未来を担う子どもたちの成長を支える質の高い教員を輩出し続けることをお約束いたします。